

もりあい し ていえん  
盛合氏庭園

- ◇ 指定日 平成24年1月24日
- ◇ 所在地 津軽石
- ◇ 所有者 個人

盛合家は、江戸時代の元禄年間(1688-1703年)頃から「南部鼻曲り鮭」で知られる津軽石川鮭漁せぬし いわしこじたあみ りゅうせい かいせんの瀬主や鰯小舌網漁などで隆盛をなし、廻船業・酒造・質屋なども兼業し、盛岡藩きゅうにんの給人(士分)ともなった三陸沿岸随一の名家・豪商です。

当家の主屋の10畳座敷から南に広がる池泉庭ちせんてい園は、寛政9年(1797年)の藩主南部利敬としたかによる領内巡視の際に宿所として使用されるのを契機に整備されました。

池泉は石組で護岸され、中央には岩島を設け、スズキやアユ、ヤマメなどの魚類が放たれていたといわれています。池泉の背後には築山つきやまが築かれ、大振りな景石けいせきも複数据えられています。イチイ、クロマツ、イヌマキなどの庭園樹のほか、周囲にはサツキも植えられています。

18世紀末から19世紀にかけて、三陸沿岸に伝わった庭園文化をうかがえる貴重な庭園です。

